



四季彩のまち kamifurano あなたに届けたい想いがある…



# かみふるの



2016

6

NO.685

こうほう



大正15年の十勝岳爆発から90年  
特集 絶望…  
その先にある  
希望に向かって

## 主な内容

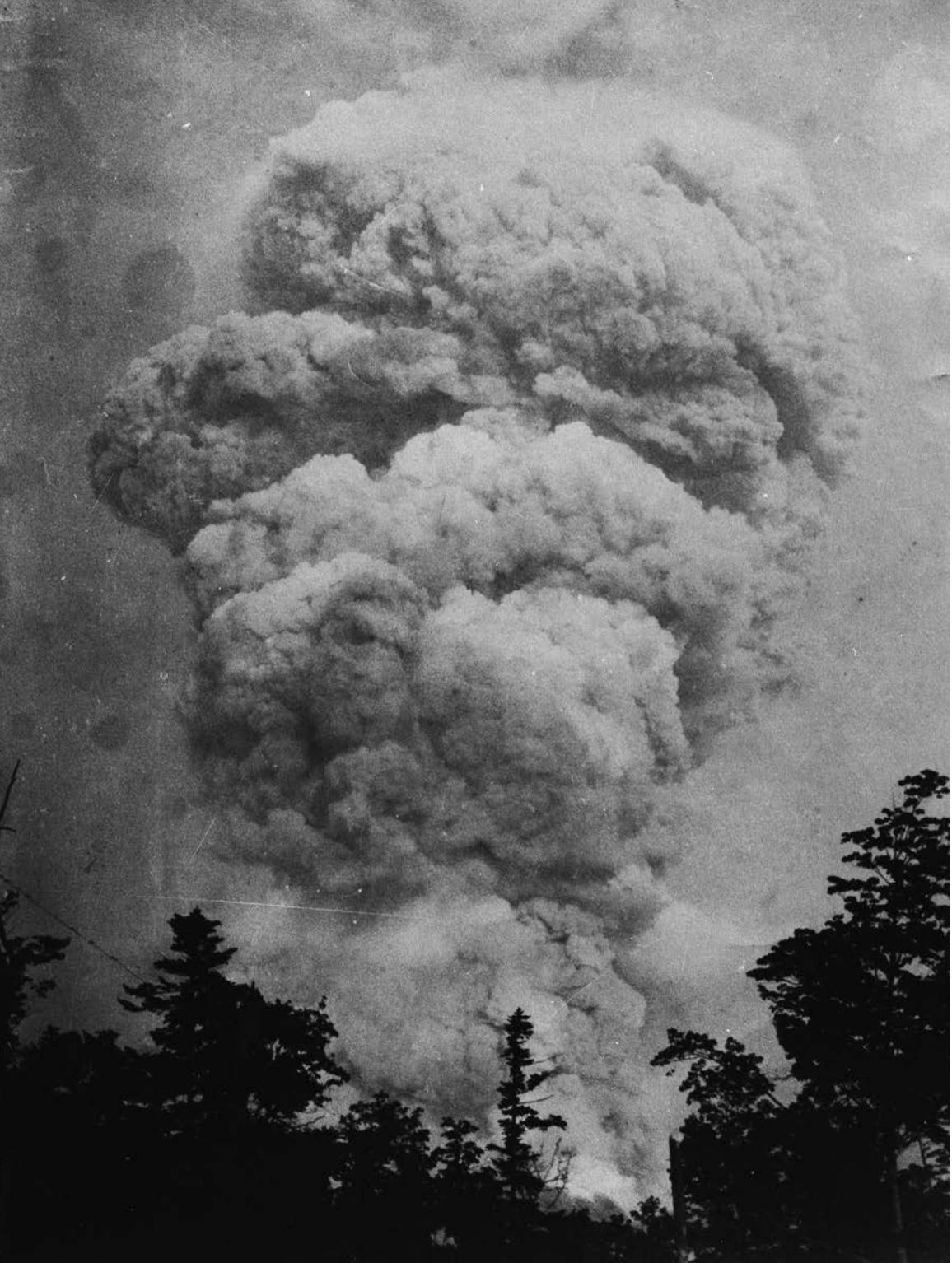
日本ジオパーク認定をめざして  
ジオイベントを開催！

お越しください！ 学校の授業参観

十勝岳を前に花を手向け、鎮魂の祈り  
～大正15年十勝岳噴火泥流被災90周年追悼式～

# 大正15年の十勝岳爆発から90年

## 特集 絶望…その先にある希望に向かつて



大正15年5月24日の爆発から3カ月、十勝岳は9月8日にも噴火。その際の噴煙の状況

(上富良野町郷土館所蔵資料)

大正15年5月24日午後4時17分、十勝岳の中央火口丘、硫黄山とも呼ばれていた丸山が爆発。残雪を溶かして大量の水分を含み「山津波」と化し、まちをのみ込んだ泥流。ふもとまでの到達時間は約25分、最高時速100km、平均時速60kmだったと考えられています。

「災厄が突如として上富良野村を襲うや、泥流と木の奔<sup>ほん</sup>転<sup>てん</sup>する物<sup>もの</sup>凄<sup>すさまじ</sup>き響<sup>ひび</sup>きの裡<sup>うち</sup>に、人々は遅<sup>おそ</sup>くも高<sup>たか</sup>所<sup>ところ</sup>に逃<sup>お</sup>れんとし、遂<sup>つい</sup>に遅れたるは、或<sup>あるいは</sup>は忽<sup>おのづか</sup>ちにして姿を泥中に没<sup>ぼつ</sup>し、或<sup>あるいは</sup>は家屋<sup>けや</sup>に取付<sup>つりつけ</sup>きて遠く運<sup>は</sup>ばれ、或<sup>あるいは</sup>は流木<sup>りゆうぼく</sup>に縋<sup>つ</sup>つて救助<sup>きゆう</sup>を求むるも及ばず、親をたづねる子、子を呼ぶ親、妻は夫に別れ、老いたるは躊躇<sup>ちう躇</sup>、幼きは号泣<sup>ごめい</sup>し、悲鳴<sup>ひめい</sup>と叫喚<sup>けいがん</sup>とは到る所に湧き上り、この世ながらの修羅場<sup>しらば</sup>を現出した。」

(十勝岳爆発災害志より抜粋)

見渡す限りの泥と流木。線路<sup>せんろ</sup>はめぐれ上がり、家も、人も流され、当時の上富良野村の死者・行方不明者137人。明治30年の入植から30年、汗を流し、必死に開墾してきただ水田約500ha、畑約200haが泥の海に沈みました。この大正泥流発生から90年。町内ではいくつかの追悼行事が行われました。今はそれら行事の報告と併せ、噴火当時の証言記録、三浦綾子さんの小説「泥流地帯」などを通じ、私たちの住む「かみふらの」の歴史の一ページをひもとき、絶望の中から復興を成し遂げた先人の労苦をしのびます。

本特集では当時の人々が受けた印象、衝撃をお伝えする表現方法として、当時の新聞記事やこれまで刊行されてきた書物などで使用されてきた十勝岳「爆発」の表現を用います。







# 体験者の証言から

地獄が煮えくり返っている  
ような地鳴りが

高田秀雄さん（証言時67歳）

平成4年12月から7年8月までの2年8ヶ月をかけ、北海道旭川土木現業所（現上川総合振興局旭川建設管理部）富良野出張所砂防係が聞き取り調査を行い、平成9年3月にまとめた1千200ページを超える「大正泥流聞き取り調査記録・体験者19人が語る」の証言をもとに当時の様子をお伝えします。

なお、誤・脱字、句読点は修正し、漢字、仮名遣いについては広報かみふらの編集基準に基づき表記。また、証言は話された言葉そのまま掲載していますが、要所を抜粋のうえ、語尾などには若干の修正を加えています。

大正7（1918）年7月21日生まれで当時7歳。西2線沿いの東側、北27と28号の中間くらいにあった自宅を出て泥流を直撃。現在、上富良野西小学校のある場所で流れのを見ていた。

歩くのがもう2、3分早かつたら助からなかつた

佐川亀蔵さん（証言時83歳）

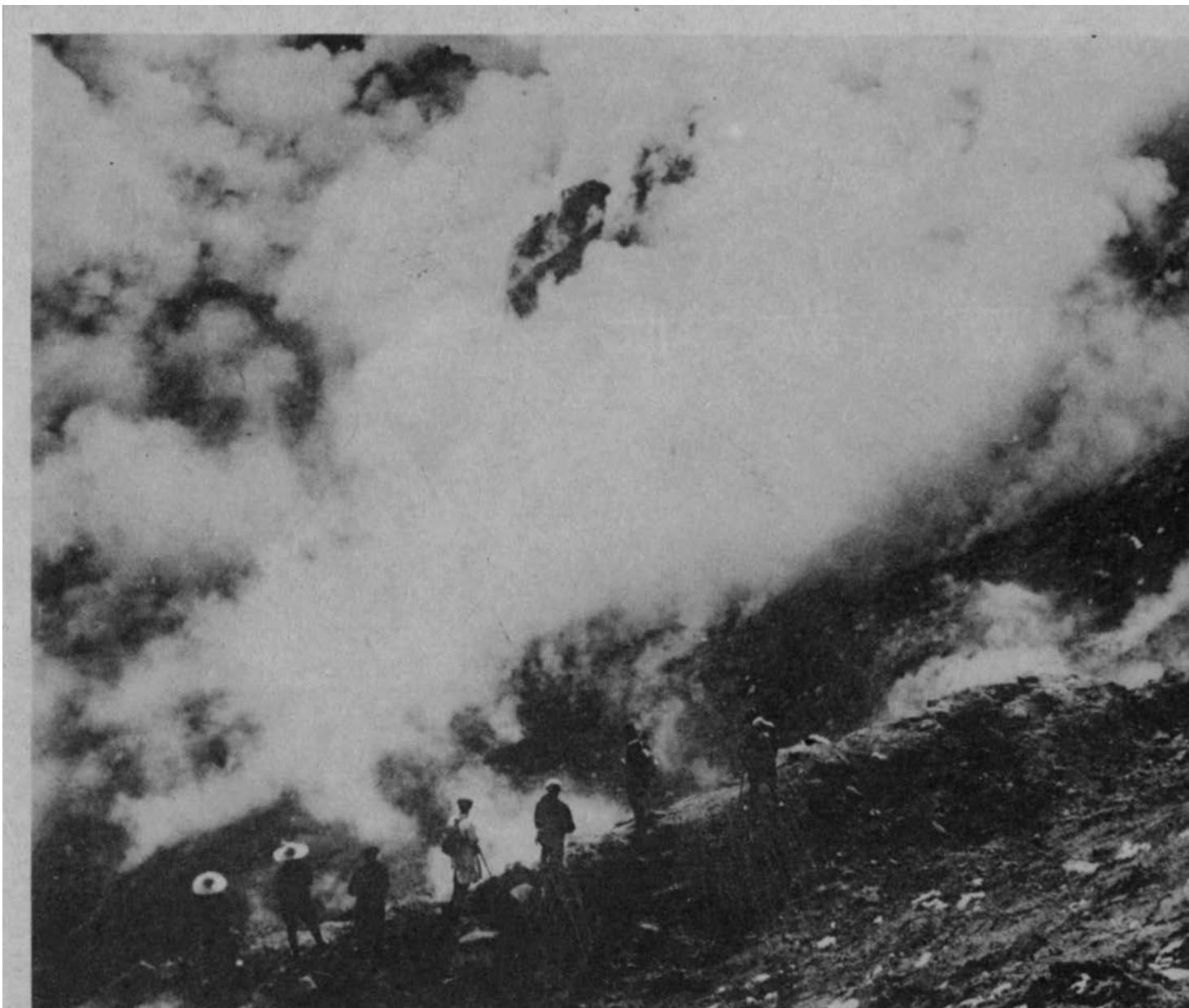
明治42（1909）年7月5日生まれで当時16歳。当曰は雨で仕事が休みで、ピリカ富良野川での魚釣りからの帰り、旧日新小学校付近の富良野川右岸斜面の道路で、片倉喜一郎さんの親が「水だ」と叫んでくるのを聞いた。ようだちやつむ。（爆発の曰は）

音、感じた。その音がね、恐ろしいよな音なんだよ。ただね、大砲撃つたつていうような音でない。ゴロゴロゴロってね、なにていう土ん中がね、まあ、煮えくり返るつちゅうかさ、まあ地獄がね、煮えくり返つてんだないかつかうつよくなね、不気味なね。

これが今この道かな。ここに藤山さんて家あつたんですねけどもね、そこ越すと、橋にどりどりした水が流れとつた。前の晚あたり爆発して流れてきたんじゃないかなと思ってあつたんですねけどもね。そして24日の日はそういうわけで魚釣りに行つて、そのころもうずつと山が非常に多いの鳴動つてつりか、鳴るばっかりで地震なんかも多いし、もうひどい音してあつたんですね。で、お腹食べて、あまり気持ち悪いよ、いつもと違つてひどい音がするもんですからね、ちょうど4時でひの高台に来て、日新の学校のすぐ上まで来た時流れてきたんですね。そしてその晩は帰れなくて、山の、藤山さんの開拓当時入った小屋に泊まつて、そして次の日帰つて来たんですね。

もう歩くのが2、3分早かつたり、もうその泥流の沢へ入つたら助からなかつたですね。もう早かつたですね。時速、いろいろの記録にも出てますけども、60キロつてこつてまあかじ、あの沢なら60キロじゃあかないような気がするんですね。今でも車走るのこつ見てますけど、60キロくらいのものなんぞそんなじゃないですか。それどころじゃなかつたですから。わあか2、3歩歩いて最初に見たのが、そうですね、その学校の所から一千㍍くらい上のとい、富良野川の少しカーブになって出てるところのそこんところに出たのは見えたんですね。下から今の片倉さんの親のお爺





義援金の募集促進のため、大正15年7月に旭川絵葉書俱楽部が発行した8枚組の絵はがき集「十勝岳爆発大惨事の実況」のうちの1枚。絵はがきには「十勝岳硫黄山爆発の惨状」と書かれている（上富良野町郷土館所蔵資料）

さんが走つて来たです。

水だつて言つんだけじ水には見えなかつたですね。風だと思つて、風でガスだと思つたんです。沢いっぽいになつて、こう黒くなつて来るから風だと思つたんです。で、2、3歩行って、ひょいと見たらもう沢は足の下にすぐ来てますからね、もう全部真っ黒けでそこで初めこ水だと思つたんですね。それから何歩も登りんで逃げて上へ走つたんですけど、いくらもたたんで行つたんですけど、もうすっかり沢いっぱいになつて、湯気たつてあつたもんですからね、相当早かつたんですね、やっぱり…。

一番先に私見たのが、死体見たのが藤山さんの子どもさん、あれ5年生か6年生の女の子だつたんですけど、次の朝見たときに、最初見たのが菜種畑の縁へ押し付けられてあつた、頭ざつくり割れてね。それ一番先に見たんですけど子ども背負つて、あとつつあんたつたんですけどもね、こう居つたのが胴体無かつたつて後で聞いたんですけどもね。何にも、手でこうおぶつたきりなんですかね、ひもでも帶でも背負つたんでもね。後で聞いたり胴体無かつたらしいですね。やっぱりね、親の信念ついてままでなつておつたですね。



あびただしい数の流木が一面を覆う(上富良野町郷土館所蔵資料)

**風でぶつ飛ばされて、氣絶  
しちやつたんだな**

**喜多光儀さん** (証言時77歳)

大正7(1918)年4月24日生まれ  
で当時8歳。ピリカ富良野川にかかる  
道道の橋(現口新ダム下流部)の右岸山  
岸にあった自宅の玄関から泥流を目  
撃。家中に戻るが家ごとのまれ、自  
宅からピリカ富良野川上流方向約200m  
のところ意識が戻った。

「水が出たから逃げれー」って聞こ  
えたから出ようと思つたら、もうすで  
に暗くなつてさ、水来とるの。それで  
もつちよつと見たら山の際ぐらいに、  
真つ暗になつて見えるわけさ。無意識  
に家に飛び込んだらね、板がかあ一つ  
じふう上がるのわかつたの。したら風  
でぶつ飛ばされて、台風でぶつ飛ばさ  
れるみたいに気絶しちやつたんだな。  
それきりや。

そうしておつて、しばらくしてつい  
ついた時にはもう水の中で浮いた  
んだわ。流木がいつぱいあって、それ  
につかまつとつたんだわ。水中一回  
流されて泥だらけになつたんだけど  
ね、奇跡的に水も飲まんで、泥水も飲  
まんで浮いたんだわ。

母親もその通り、ね流されて、後の3  
人はね、18の姉と13の兄貴と15の隣の  
大沢さんから来とつたのと3人がね、

これが死んじゃつたんだわ。母親が50  
からになつとつといい加減弱つとん  
だけ、それもちょうど助かつたの。  
ちようど運よくね。

流木はね、たいしたもんだつた。と  
にかく原始林の流木だからね、松だわ  
な。これが直径3尺(※)のやつね。甚  
だしいものは、私見てびつべつしたの  
は6尺から7尺に折れてんだ。きれい  
に。そんなのも来とつたよ。ほいで  
ね、木つちゆう木ば、こんな木から太  
い木まで皮一つひとりんかった。全  
部こうなつて来たから、むけちゃつ  
て。へりがマッチの軸みたしにぎり  
になつてね。そやつて来たんだわ。  
※1尺は約30cm

**菅原珉次郎さん** (証言時87歳)

母親はもう真っ裸になつて  
顔の形も何も全然わからん

明治38(1905)年3月31日生まれ  
で当時21歳。当口は雨で仕事は休み。  
西2線北31号にあつた通い作用の仮住  
まいに弟と2人でいたところ、大きな  
音がしたので外へ出てみた。200m先に  
泥流が流れてくるのを目撃。高台で泥  
流の流下をそのまま見ていた。

1ヵ月も前からね、山が「ゴンゴン」  
鳴つて。ただ、誰一人も山が爆発する



遺体を安置所に運ぶ(上富良野町郷土館所蔵資料)



安置所前で手を合わせる(上富良野町郷土館所蔵資料)

なといふ人はいなかつたんですよ。薄氣味が悪いとみんな言つていて、その5月24日の午後4時20分ぐらゐですか。その日はちよつと朝から土砂降りで雨が降つてね、休んでいた間に居つて、幾分か小降りになつたかなつてとにかくね。大雨と大きな音がした。

そして今度、外へ出てみたり、まあものかげい流木が流れて。その後から土砂だねえ、煙を立てて、ドンドン、ドンドン流れてきたんです。飛び出したらい、かぐもの田の前まで泥が流れきておつた。湯気みたいな煙が立つてゐるから、向いのなんか見えなくなつて

るんだ。(高さ)住宅からみたらね、やつぱつ倍くらいはあると思つたね。(日新の住宅にいた母親は流され、2週間後に遺体が見つかった)

市街の墓地の下、あそいで上がつたんですよ。2週間田だからね、もう体がぶくぶくになつてしまつて。顔も皮がはげてしまつて、全然ただ見たつてわからんの。母親はね、乳脇の上にもう一つ大粒くらいの「ほこやつ」がちょっとしてあつたんですね。それでわかつた。もう真っ裸になつて、顔の形も何も全然わからん。

※当時の住宅はおおむね高さ6.3mほど

ぼうぜんとしてばかみたいに見とつたんだからねえ

水谷ミツエさん(証言時79歳)

大正4(1915)年8月7日生まれ。当時10歳で姓は落合。北28町と西4線の交差点にある自宅を出てすぐ山線路の向こうに泥流を衝撃。北28町道路を西へ行き、西5線付近の上り坂途中まで逃げた。

(家で)お手玉を作つておつた。そしたらちょっと窓から見てみたら、人が

フーッと逃げるので。何の氣なしに私も外に出てね、「逃げれーつ」とつて言つて走つてゐるから人の後ついて逃げてつたのさ。28町まで出た時にもうその線路のといふくじになつて、山になつて流れてた。泥流が何かわかないよ。だけどものすごい勢いでね、土の水みたいなもんが流れて來たの。もう後ろも見ないで上へあがつた。それで山の上あがつていつやつて見たら、かゆい血脉が一ヶ所と流れ

てね。

そこでみんなフーフー一囁きのうちにして、泣きの家もなつてしょ。そのうちに親がやぢも見つかし、親やらみんな寄つておたでしょ。そしたらひょううじいの近く、おばさんのが5線の奥の方にあつたのね。そこへ連れて行つてもうつまで、何でもそいで日暮れまで座つとつたような気がしたね。そして今度ね、夜もわづびくらつたんだね。あれ、そのおつかなかつたんだけれど、農耕を抜かれるつちゅうのかい、もつあつかないの。それで夜も寝るんだけどバツと起きてね。その流れくる光景がね、馬も流れてくるんだから。こうやって屋根がパーッと上に。きっと家の中に居つたんだろうね、あの。おりかなくて腰抜けてしまつても、ぱりせんとしてばかみたつて見てつたんだからねえ、子供もだからびくべくしちゃつて。

大きな立木が立つたまま落  
ちてきたわけさ

## 星野春治さん (証言時82歳)

明治43(1910)年2月17日生まれ。当時16歳で姓は井上。西2線北28号、線路近くにあった自宅付近にて泥流を団撃。弟を抱えて山に逃げ、その後は山で火をたいて過ごした。



上富良野橋から惨状を見つめる子どもたち(上富良野町郷土館所蔵資料)

兄貴と2人で仕事しどつた。朝からもへ、じやんじやんじやんじやん煙が降つてねえ、ひとひ日だつた。昔のこじだからね。煙草もないんだわ、うん。蓑と麦わら帽子かぶつてね。そして素足。畠、あの水田入つて、素足だね。今みたいに靴がなかつたから、その時代、素足だね。そやつて入つたんだ。で、畠はじやんじやん降るし、親父が田んぼに来たの。むつ今田やめれつ

ね。わたしやまあ臺  
んで上がつて。(家  
に)入つて、着物脱  
いだりなんだしどつ  
たら、大きな音がし  
たもねえ。

ああ十勝岳がね。

ええ十勝岳ってのは十勝岳って書くのが一苦労だ。

言わんといひたれ 研  
黄山つて言つてたひ

だわ。うん。硫黄山  
が爆発したんだなつ

て。そのね、何日か

前から本格的な記述

るかもしれん、山が  
鳴ってるんだなん

て、そんなこと私聞  
いたんだね。そ、そ

したらいじんだんの音

たやうたしんたよ

津波の「ことなんだけど」はよう逃げ  
れつて、それつけ家入つて。  
炉端で3月に生まれた赤ん坊があつ  
たの。それ、そのままいにに抱かれ  
て、上にどつと畠伝いに、山に逃げた  
んだ。どんなんなつて、山、後ろ振り  
返りもしないから、どんなんなつて流  
れたもんだかもう。水足はもうね、何  
丈(※)も高くなつて、まぐれて来とつ

たもね。煙みたいのも立つて、恐ろしいもんだつた。まづまづ、凄いもんだったねえ‥。大きな立木が立つたまま落ちてきたわけさ。

※1丈は約3m

A black and white photograph capturing a group of workers on a railway construction site. In the foreground, a large, curved metal wheelbarrow is being maneuvered along the parallel rail tracks. Several workers are visible; one is pushing the wheelbarrow from behind, while others are positioned around it, some appearing to be loading or unloading materials. The scene is set in a rural, open landscape with rolling hills or mountains visible in the background under a clear sky. The image has a grainy, historical quality.

めくれ上がった線路(上富良野町郷土館所蔵資料)

死体を積み重ねて焼くその  
煙が印象に残つている

大角伊佐雄さん（証言時76歳）

大正5(1916)年3月18日生まれで当時10歳。西3線北27号の自宅で線路付近にいた誰かの「水だ」という声を聞いて表に出たとき、北28号道路を泥流が越えてくるのを目撃。すぐに家族と西の山に避難した。

28 叩道路がね、もうかぶつて、  
じう上がりこぐのが見えたせん  
でそれでもり一直線に家族と…。  
27号まで来る時間がちょっと  
あつたんで、もう60過ぎの婆がや  
んを引つ張りながら父親はね、家  
族が多いもんでおんぶしたり、そ  
の姿がやつぱり何度も。先行けば  
いいんだけどもね、遅いのとあれ  
じでもう。靴や下駄は履いてつた  
んだがじも、山へ登るときはむか  
何も付けていないってじうか。  
これはもうほんとに何じうか  
ね、「あつ、また上がったとい」、あ  
そい家流れた」とかって「うね、  
目の前を流れてくる様子がはつ  
きり見える高台に居つたもんだから。  
動いた状態で家が半壊して流  
れてくる。そして亡くなつた人は  
裸体になつて頭の毛はない状態。  
泥水のね、水だつたら助かるんだ



## 大角さんが描いた回想画



けども一口飲んだらもう泥なんですか  
いや、死に方つていうね。だから  
の男も女もわかんな状態でね。板下  
駄で履いてみんな探しに歩いたんですね。  
で、上がった途端黒くなつてね、人相つて  
いつのはわからない。そして  
何召まだ見つかつてないのがやつは  
ね、あれの下にいるんだつていうのが  
ね、すごい一つの歴史だなと思つてい  
るんです。田道をね、スコップで削つ  
て後で見た時に泥流の色でね、下はも  
うそのままの状態になつてござ。

自分の使う教科書もみな慰問にも  
らつた。人の名前を書いた本なんかを  
配給でもらつたりしてね、そして隣の  
学校へ…。ほんとに一晩で状態が変  
わつてしまつ生活がね、気持ちの上で  
忘れられないことです。そして友達と  
がつたつて行つて原をひてもひ、真つ  
黒になつてしまつて。

こあいはね、3段ぐりこに変わつた  
ですね。木工場の青木のにおいつてい  
うかね、木の肌からね、あれどが溶け  
合つたようなにおいがして、まあ、そ

の(い)ぬは感じは良かつたんですね。それがだんだんと悪臭になつ、そして動物たちの死んだにおいがもう一ヵ月ぐらいいするじね、バーッと立ち込めてしまつてね、ものすごい一つの墓場みたいな感じに受けたんですね。

(死体を)集めてね、流木の乾いた所で積み重ねにして焼く、その悲惨な状態を油絵に描いてね、お(い)そつていうか死体をね、積み重ねて焼くその煙ですね、自分にはもつ印象に残つてゐるもんですからね。

の家が動き、電柱が倒れるのが見えた。命の危険を感じ家に戻り、母親に声をかけ、馬に乗つて市街を通り明憲寺に逃げた。

（現泉町二丁目）自宅付近の田んぼで代かきをしていたといひ、西の線あたり

苦労はしたけども、ここにかじりついておったからね  
杉山芳太郎さん（証言時87歳）

明治38（1905）年2月6日生まれ  
で当時21歳。午後4時頃、北27号  
（現泉町二丁目）自宅付近の田んぼで代

かきをしていたといひ、西の線あたり

もわかつていつの見じるからね、やつぱり、百何十人という人がこの十勝岳の噴火で亡くなつてゐるからね。それで、この数珠もね、流木でこつ作ったの。それから、お地蔵さんもね、造つたの今そひにあるんだ。近いうちになので、深山峠（新四国八十八ヶ所靈場）へね、みんな持つて行くことになつてゐる。

5月の24日に私、馬で代かきしど

（泥水は）そうだねえ、灰色つて書いていいか

ねえ。その泥流の土を持つてきて、この、ストーブの上へこやつて粉を振るとなえ、ポツポツポツポツと燃えるんだわ。硫黄が混じつているから。

この泥流でもつてねえ、大した土地が流されて埋まつて。米は取れないし

ねえ、ああ苦労はした。苦労はしたけども、ここにかじりついておったからね。米もだんだんとほれ、鉛毒が抜け

で、その女の人もね、はさ棒（※みたいの）持つてきてね、体浮かしたの。

そしたら頭の髪の毛がね、全部

土の中に入つて固まつてるもんだから、頭の毛全部抜けられ坊主になつたの。

そんなのも私、見たんだ。

たんだ。この裏の方でね。そしたらね、午後の4時頃になつて、変な音がするんだ。「ゴーーってね。地響きもしたし。何の音だろなあと思つて、隣の人とね、ちよつと近かつたから、何の音だろなつて話してさ。そしてまた代かき始まつて、またちよつとその向こうの方見たといひ、こんだ今の草分の2線の踏切のちよつと上方の電柱が倒れるんですね。まるでマッチ棒でも倒すようにバツタバツタとね。いや、あつかいなあと思つてね。俺の口が狂つたんかなと思つて、よく見てもやつぱりそれがおんなじなんだ。こんなといひに居たりねえ、こり、命ないわと思つて、そして馬連れてつちへ帰つて。うちの母親やなんかば、みんなもう午後4時過ぎだから風呂に入つてたんだから。早く逃げないかんつて言つて、用意もひくたましないで、市街へ行つたからね。

（泥水は）そうだねえ、灰色つて書いていいかねえ。その泥流の土を持つてきて、この、ストーブの上へこやつて粉を振るとなえ、ポツポツポツポツと燃えるんだわ。硫黄が混じつているから。

この泥流でもつてねえ、大した土地が流されて埋まつて。米は取れないし

ねえ、ああ苦労はした。苦労はしたけども、ここにかじりついておったからね。米もだんだんとほれ、鉛毒が抜け

ていいか、茶色つて書いていいかねえ。その泥流の土を持つてきて、この、ストーブの上へこやつて粉を振るとなえ、ポツポツポツポツと燃えるんだわ。硫黄が混じつているから。

この泥流でもつてねえ、大した土地が流されて埋まつて。米は取れないし

ねえ、ああ苦労はした。苦労はしたけども、ここにかじりついておったからね。米もだんだんとほれ、鉛毒が抜け

て。米が最初、1俵半ぐらいしか取れなかつたんだ、1反にね。それが2年、3年と経つにしたがつて1俵半が2俵、2俵半、3俵つてだんだんつてねえ。取れるようになつたのが20年大体、5俵取れるようになつたんです。それまでは気候の悪い年でねえ、ほかの土地は気候悪くて反に6俵取るところだつたら、この災害地はそれよりまた下回つたんだ、収穫がね。

そして道具が傷む。なんせ酸性の土地だから。プラウがつて大した減るんだわ。新しいプラウ買つても2年と使えないんだ。先欠けつちゅうのしてね、使えないの。ゴムホースだつてそのままの通りね。馬だつて、馬の足がね、血が出るようになつてかわいそな思いしたけども、しようないんだわ。

アラタ工業の向いのね、道路が全然変わつてゐるけども、今の布施さんの前から、じうずつと成田さんの家の裏



流木の山と半壊した家屋（上富良野町郷土館所蔵資料）

たんだ。この裏の方でね。そしたらね、午後の4時頃になつて、変な音がするんだ。「ゴーーってね。地響きもしたし。何の音だろなあと思つて、隣の人とね、ちよつと近かつたから、何の音だろなつて話してさ。そしてまた代かき始まつて、またちよつとその向こうの方見たといひ、こんだ今の草分の2線の踏切のちよつと上方の電柱が倒れるんですね。まるでマッチ棒でも倒すようにバツタバツタとね。いや、あつかいなあと思つてね。俺の口が狂つたんかなと思つて、よく見てもやつぱりそれがおんなじなんだ。こんなといひに居たりねえ、こり、命ないわと思つて、そして馬連れてつちへ帰つて。うちの母親やなんかば、みんなもう午後4時過ぎだから風呂に入つてたんだから。早く逃げないかんつて言つて、用意もひくたましないで、市街へ行つたからね。

（泥水は）そうだねえ、灰色つて書いていいかねえ。その泥流の土を持つてきて、この、ストーブの上へこやつて粉を振るとなえ、ポツポツポツポツと燃えるんだわ。硫黄が混じつているから。

この泥流でもつてねえ、大した土地が流されて埋まつて。米は取れないし

ねえ、ああ苦労はした。苦労はしたけども、ここにかじりついておったからね。米もだんだんとほれ、鉛毒が抜け

て。米が最初、1俵半ぐらいしか取れなかつたんだ、1反にね。それが2年、3年と経つにしたがつて1俵半が2俵、2俵半、3俵つてだんだんつてねえ。取れるようになつたのが20年大体、5俵取れるようになつたんです。それまでは気候の悪い年でねえ、ほかの土地は気候悪くて反に6俵取るところだつたら、この災害地はそれよりまた下回つたんだ、収穫がね。

そして道具が傷む。なんせ酸性の土地だから。プラウがつて大した減るんだわ。新しいプラウ買つても2年と使えないんだ。先欠けつちゅうのしてね、使えないの。ゴムホースだつてそのままの通りね。馬だつて、馬の足がね、血が出るようになつてかわいそな思いしたけども、しようないんだわ。

アラタ工業の向いのね、道路が全然変わつてゐるけども、今の布施さんの前から、じうずつと成田さんの家の裏

「母さん、空が落ちて来たよ」と言つたんです

諏訪キヨエさん（誕生日の歳）

大正4（1915）年9月16日生まれ。当時10歳で姓は船引。西2線北31号付近、現道道沿いの自宅玄関で現公民館口新分館付近に泥流を目撃。

当時はただもう怖かった思いしかありませんから、今現在はやつぱり当時の村長さんですね。吉田貞次郎さんが頑張つてあれだけの土地を開いてくれたことに感謝しますね。

土地を復興するのに反対派がいて、ひどかっただけよねえ。私たちには子どもながらに恐いのじいと思つたの。貞次郎さんは役場へ通うのに、もうほんとに命懸けて通つたんじゃないですか。反対派が貞次郎さんを傷めようとしたのかねえ。もうお気の毒なぐりいでしたよ。それでね、やっと復興できあんなきれいになつたら戻つてきた人いるんですよ。反対してねえ、村長の悪口言ひながら、わざとこなつたらみんな戻つてきた。

（跡地）なんか「ローロー」音があるから出てみなもつて言われたの。それで玄関へ出たが、もう空と下が真っ黒になつて何も見えない。だから「あら母さん、空が落ちてきましたよ」と言つたんですね。見たまんま母に「空落がれてき



美しい田んぼ、豊かに実る畠も一面泥の海と化した（上富良野町郷土館所蔵資料）

たって、かづらが山から泥水が来たんでしょねえ。山がずーっとそのまま下つてしまつたような感じでしたねえ。山が移動してきたよつた感じでした。もう家の上までじつて出たから、家の3倍も4倍もあつたのではないか

て、かづらが山から泥水が来たんでしょねえ。山がずーっとそのまま下つてしまつたような感じでしたねえ。山が移動してきたよつた感じでした。もう家の上までじつて出たから、家の3倍も4倍もあつたのではないか

て、かづらが山から泥水が来たんでしょねえ。山がずーっとそのまま下つてしまつたような感じでしたねえ。山が移動してきたよつた感じでした。もう家の上までじつて出たから、家の3倍も4倍もあつたのではないか

（續）の前こんな大木立つたまんまでしたたつて、母さんが「あへ、津波だ」と言つました。そして私の見てゐたかじかへ、ひむかへ、石と泥と大木がもう立つて乗つて市街の学校まで通りました。

真っ白な壁がバーッと散つ  
たんです

高橋寅吉さん（証言時78歳）

大正3(1914)年5月16日生まれ  
で当時12歳。上富良野駅前、国道(現  
道道)沿いの当時の自宅で「水だ」とい  
う声を聞き外に出ると、現上富良野西  
小学校付近の住宅の屋根が飛びのを目  
撃し、兄と2人で日の出山へ避難。



爆発被害者の村葬。右手前が吉田村長(上富良野町郷土館所蔵資料)

爆発被害者の村葬。右手前が吉田村長(上富良野町郷土館所蔵資料)  
ま、最終的に村長さん  
の吉田さんの決意で大半  
がこの復興にかけられ  
て、ま、見事な回復した  
ちゅうことが貴重な…。

屋根がね、こうなつて逆巻のようだ  
広がつてね、飛ばされて、ほんとに  
ちようど今の爆弾や何かで破裂するの  
と同じじ、真っ白な壁がバーッと散つ  
たんです。それがパタッと消えてし  
まつた。といつこじは泥ですからね、家  
後ろから来るのはもう泥ですから、家  
もなければそのままサーソと持つてつ  
てしまつたもんですから。もう見た瞬  
間に、あと遠くに茶色の原野ですか、  
そんなふうに見えただけですからね。

い存じのよつにこの爆

発後のこの復興について  
は、(国などから被災者  
に入る)お金の分配で問  
題が2つに割れて、そん  
なもう何ていいますか、  
復興なんか絶対不可能  
だつていう派と、いや復  
興したいつちゅう、まあ  
村長さんの派と2つに割  
れて村が2分して、もう  
それこそもう…。一時  
でしたら晩、晩ていうよ  
り晩でも、もう吉田村長  
をぶつぶせとか…。2  
派に分かれましてね、大  
騒ぎしてたんだけども。

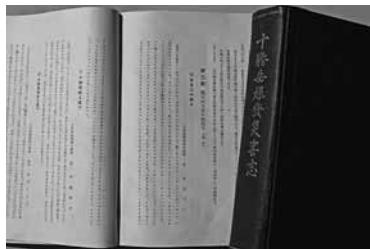


# 被災児童の作文から

## 特集 絶望…その先にある希望に向かって

大正15年の十勝岳爆発被害の状況などをまとめた「十勝岳爆発灾害志」（昭和4年（1929年）北海道庁学務部社会課内十勝岳爆発罹災救済会発行）の最終章、第11章「災害余録」の第3節「罹災地児童の感想文（原文文）」には被災児童7人の作文が掲載されています。その中から3人の作文を一部抜粋してお伝えします。

五月二十四日バルチザンさんげきの日であつた。あのじる水が来たのも其の日で水だ水だといろいろあをきてしようかんめいに山へにげた。私たちは山にひいて居たら、おかひでもひからでも人が、たすけてくれといつて流れで来ます。ほんとうにかはいじうでたまりませんでした。其のうちに水がしつらだからうちへかへつました。そうしての人たちはにげたのでせうが、水の流が速かつたので水にさりはれてしまつて、足がなかつたり、あたりしてしんまがわれたり、手がとれたりしてしんだのだそうであります。あのおそろしい日は死ぬまでわすれぬいじが出来ません。



### 十勝岳ばくはつ

上富良野尋常小学校

尋三 伊藤 福治

五月二十四日バルチザンさんげきの日であつた。あのじる水が来たのも其の日で水だ水だといろいろあをきてしようかんめいに山へにげた。私たち

は山にひいて居たら、おかひでもひからでも人が、たすけてくれといつて流れで来ます。ほんとうにかはいじうでたまりませんでした。其のうちに水がしつらだからうちへかへつました。そうしての人たちはにげたのでせうが、水の流が速かつたので水にさりはれてしまつて、足がなかつたり、あたりしてしんまがわれたり、手がとれたりしてしんだのだそうであります。あのおそろしい日は死ぬまでわすれぬいじが出来ません。

### 生残つて

上富良野尋常小学校

尋五 船引 武

万雷の一時に落ちて来た様な物凄い音を立てて、谷間から真黒になつて寄せて來たものがありました。見る見る

身にせまつて一のみにされた様でした。もつだめだ、死んだふで高い岡へ走りついたと思ふどバツと泥水がかぶさつたが、夢中ではい上つた。皆死んで生き残つたのは僕一人だけだと思ふ

と、悲しいやら嬉しいやら、何とも云ふことの出来ない感じがしました。それでも万一、家の人が助かりはしないかと思つて探し廻りましたが、一人も見つかりません。水田も家も父母も兄弟も流れてしまつた。自分一人生残つてもなんともし方がないから死んで皆の所へ行かうかと思ひました。余りの事に氣も遠くなつてしまひました。本当にこんな悲しい恐ろしい事はありません。お天道様もひじい、情ないとつらみました。

後になつて幸にお父さんだけ生残つてゐました。お父さんは武と呼びました。私もお父さん呼び互にだき合ひて思ふ存ぶん泣もあした。

てゐました。お父さんは武と呼びました。私もお父さん呼び互にだき合ひて思ふ存ぶん泣もあした。

又もや水が押し寄せられて来るつた。山藤病院の前まで来た。今死体をかついで来たといふのだ。青黒く腫れた体、目、鼻から血の出でる可哀さうな泥だらけの死人。五人、六人、七人。僕は思はずひやりとした。さうして此の哀れな人々と自分とを思ひながらべた。つい今しがた負傷した人が此の病院に入つたといふ。地面には流れ

### 山海嘯の襲来

上富良野尋常高等小学校

尋一 佐々木 顯

恐ろしう出来事の起つた其の日。生

涯忘れられぬ大正十五年五月二十四日の夕方。此の日僕は学校から帰つてから、何時もの様に牛の乳を搾つて仔牛にのませた。(中略)軒から落ちる雨だれもだんく少くなつた。その時「ゴロゴロゴロゴロ」急に変な音が聞え出して來た。

雨のため島かの帰つてゐた父や母は「何だらう、雷だらうか」「いや雷にしこそたが、夢中ではい上つた。皆死んで生き残つたのは僕一人だけだと思ふ

と、悲しいやら嬉しいやら、何とも云ふことの出来ない感じがしました。それでも万一、家の人が助かりはしないかと思つて探し廻りましたが、一人も見つかりません。水田も家も父母も兄弟も流れてしまつた。自分一人生残つてもなんともし方がないから死んで皆の所へ行かうかと思ひました。余りの事に氣も遠くなつてしまひました。本当にこんな悲しい恐ろしい事はありません。お天道様もひじい、情ないとつらみました。

僕は半信半疑、雨がやんだのを幸ひ外へ出た。(中略)

じの店も皆口をとむつて遠く三重団体の方面は白く黄に濁水が暗い中に浮き出されてゐる。郵便局の避難の手伝をしながら見聞きすみると妙見(※正しくは明憲)寺にゆく途中の富良野川の橋には根こそぎになつた三抱えもある大木や、家がぶつかつてゐる。(中略)翌朝になつて学校は休みだと聞いて僕は惨状を見に出かけた。空は曇つてつゝやうと願ふ。

前古未會有。名状すれりとの出来ぬ大惨害であるが全国よりの同情はあげ切れぬ程で村民も皆回復を望んで元より以上にしゆつと懇意こんでゐる。僕等も来年は卒業だ。大いに村のために

※漢字についての旧字体を新字体で表記しています

# 小説「泥流地帯」から

「塩狩峠」50周年記念 上富良野町・

和寒町・旭川市3市町連携事業

十勝岳大爆発90年「泥流地帯」

三浦文学でまちおこし

開拓と災害のまちで、

“生きる”をつないだもの

あらすじ

上富良野の市街から一里(約4km)以上奥に入った日進部落の小作農家の兄弟、石村拓一と耕作は幼くして父を亡くし、祖父市三郎、祖母キツ、姉の富士子の良子と暮りしていた。市街の学校に通う児童の弁当は米の飯だが、2人が通うこの部落の学校では皆が麦飯か稻黍(いなきび)。そんな貧しい生活の中でも、報酬を求めることがなく頼まれればけが人や病人にために、どんなに疲れていても家伝薬をついて行われました。

「三浦文学でまちおこし」実行委員会などによる「小説『泥流地帯』講演会」「泥流地帯の道」を歩き、朗読を楽しむ「特別展 小説『泥流地帯』生きる、をつなぐ」の3事業が町内で行われました。

## 小説「泥流地帯」



山で取材する三浦綾子さん(北海道新聞社提供)

かつてやむ市三郎の背中を見ながら、2人は成長していく。

成績優秀な耕作は分教場始まつて以

て、だれも受験すらしたことがなかつた旭川中学に一番で合格。食べていくだけで精いっぱいの暮らしだが、拓一の後押しもあり、一家は進学させることに。しかしある日、富と恋人の武井の会話を耳にした耕作は、富の結婚のために中学入学を断念し小学校の高等科に進むことを決心する。

一方、時を同じくして、2人の幼なじみで耕作とは同級生の曾山福子は、高利貸して賭場もやっていふ深城鎌治が経営する女郎屋「深雪楼」へ父親の借金のかたに売られてしおり。

一度は耕作の中学入学のために結婚をあきらめていた弟思いの富。嫁入りして幸せに暮らすはずだった日々は、しううとめに膚づられ涙の毎日。どんな状況でも曲がったことはせず誠實に生きる市三郎とキツ、芸者として売られて父を憎むこともない福子、木切れに布を着せておぶつたり抱いたりしている良子に、のみで木を削つてこけし人形を作つてやつた優しい拓一。そんな自分たちではどうする? ともできない貧しさの中でつまよし、まじめに生きる人々を突然、山津波が襲う。理不尽ともいえる現実を前に耕作は、まじめに生きている者がなぜこのようないむごたらしい死に方をしなければならないのかを拓一に問いかける。

(前略)

大正十五年五月一四日、十勝岳の大爆発は一三七名(注・美瑛町七名を含め一四四名)の尊い命を奪いました。

私はこの事實を知りました時に、何んとも言えない思いに襲われました。

人一倍正直に、そして眞面目に勤勉に開拓した人々が何故にこの様な災難に遭わなければならなかつたか……私はつくづくそう思いました。そして小説を書くことを思い立たせていただきた訳でござります。(中略)

私は、その取材の最中に幾度、胸をつまらせたことかわかりません。どれほど、どんな大きな希望を持つて、この「上富良野」にやつてこられた方々が、その希望が実現してようやく三十年、苦労が報われたと思われた頃、せつかく耕した田も畠も……建てた家も……そして何よりもかえがたい命も失われたということ…。これは亡くなつた方、そしてそのご家族、また友人、凡ての人にとって言い難い辛いことであつたと思ひます。(中略)

それから六十年、今の「上富良野町」を見て、その時の災害の跡を感じる人が出来るのはいるでしようか…。すばらしい上富良野町として発展してあります今の姿を見るにつか、今日まで復興に力を入れた方々のご労苦を思

大正十五年五月一四日を想うとき  
三浦綾子

# 講演会 小説「泥流地帯」・「続泥流地帯」を語る

三浦綾子記念文学館特別研究員の森下辰衛さんによる講演会が4月26日、保健福祉総合センターかみんで開かれ、小説「泥流地帯」の魅力に参加者210人が耳を傾けました。



三浦さんのエピソードも交え語る森下特別研究員

【作品のテーマは『苦難』。三浦さん自身、病氣として苦難を體験しながらも『苦難の中でこそ、人生は豊かなのです』と語っています。石村家のモルハ夫の光世さんの実家で、耕作は光世さん。そこには『貧しくて、寒くて、寂しくて、辛かつたからこそこんなに素敵なお世さんになつた』という思いが込められています】

人々の生活、命をのみ込んだ泥流。

しかし、押し寄せる泥流はこれだけではない。福子は「横金」という泥流、福子に思いを寄せる拓一は「買い戻す力がない、『じつあね』ともできない」という泥流、深城の娘節子は「父親が悪人だから自分が後の指をさされる」という泥流にのまれていると説明。

「しかし拓一は福子を賣り戻すため、父が死んだ冬、山造材の仕事に行く。現実、困難に立ち向かう。それが拓一を強くします。小説の後半は『復興』がキーワード。『もひだめだ』『どうにもならな』『希望がない』と思つても、もひー回それに立ち向かえるか。そこに希望の光が差すのです」

もひー一つのテーマは「なぜ悪い」とをしていなこの、正しい人、まじめな人が困難に見舞われるのか。森下さんはその答えが次の一節、母佐枝の言葉にあるといいます。

「諒平さん、わたしには上手に説明でもほせんけどね。今、拓一が言つたように、人間の思いがあつたらなりなつといひて、何か神の深いお考えがあると聞いていますよ。ですからね、苦難むなに会つた時に、それを災難と思って歎



住民の話を聞く三浦夫妻(北海道新聞社提供)

くか、試練だと思つて奮い立つか、その受けとめ方が大事なのではないでしょうか」（続泥流地帶）

最後に、耕作が古をまいて土をかけた場面の一節「いろいろな植物の生き

てくねいの土ひとつものが、耕作は「たまらなく不思議」になる（泥流地帯）を挙げ、「豆は土をかぶせないと芽が出ない。一人ひとりが豆だとすれば、そこに泥流、苦難という土がかけられた。それで芽が出るのです。泥流は食の歴史ですが、復興の歴史でもあります。『かみふらの』といつ豆が、泥流という土をかぶせられたことで芽を出し、豊かに実ることを「祈念申し上げまし」とのエールが送られました。

の魂を受け継  
いで生生発展  
なされますと  
う心からお祈  
りしたいと願  
います。

いたためたこやの心思のむかひあら  
あす。(中略)  
そして上富良野町の方々が今後も一  
じこうぐもで  
しょうかそ

もし、その言葉は何んといふ言葉  
であるべきか私はわかりません。私達  
一人ひとり、言葉にならない言葉が  
きっとあるのだと思います。ただ願わ  
くば、この碑によつて…あの日の慘劇  
が…あの日、天に召された一三七名の  
方々の御靈が…祈念せられ…まだ、そ  
の意志を継いで絶望することなく、そ  
れはそれは大変な中で復興に尽した  
方々の、その辛い苦しい復興の努力を  
讃える碑として、凡ての人々に祈念して

…私は愚のび」ぞ」ます。  
今日いに、何の罪もなく命を奪  
われた一三七名の方々の遭難の祈念  
と、そしてその後復興に力を尽くされ  
た方々の祈念として、ここに碑が建立  
されることになりました。これは、あ  
めでたいと言つべきか……ことより  
も、もつと遙つ言葉で言い表わさなけ  
ればならないように私は思います。



## 草分神社にある文学碑

引用 十勝岳爆発災害復興60周年記念「泥流地帯」文学碑建立期成会作成  
「三浦綾子『泥流地帯』文学碑建立記念の墓」(しおりには録音を転載)

# 「泥流地帯の道」を歩き、朗読を楽しむ

## 「泥流地帯の道」を歩く

大正15年の泥流跡を巡る「泥流地帯の道フットパス」が5月22日に行われ、町内外から90人が参加しました。

バスで望岳台、砂防ダムを巡り、発当日は臨時休校だったため学校での被害はないものの児童11人が亡くなったり、校舎は跡形もなく流された「日新尋常小学校跡」へ。当時の歌をオルゴール調で再現したBGMが流れる中献花が行われ、亡くなられた方々の死を悼み全員で黙とうしました。

十勝岳爆発遭難記念碑からよいよ歩歩。十勝岳が噴煙を上げる姿を見上げながら、富良野川に沿って噴火の

歴史を伝える開拓記念館、記念碑などがある専誠寺、大雄寺、明靈寺を経て土の館までの約6kmを歩きました。「小説の場面がよみがえつてきました。中でも日新尋常小学校の跡地で、みんなが祈っている姿が一番印象に残っています」（札幌市女性）、「泥流地帯文学碑の前で碑文の朗読を聞いたとき、そのシーンを思い出して涙が出てきました」（美瑛町女性）、「ここまで復興するなんて、自然の力もすごいけど、人間の力もすごいんだなって感じました」（旭川市女性）などの声が聞かれ、参加者は当時の惨状をしのびつつ、小説の世界を追体験していました。



噴煙を上げる十勝岳を望みながら歩く



富良野川沿いの堤防

日新尋常小学校跡



要所には小説の説明も

泥流のサンプルを解説

## 朗読を楽しむ

「続泥流地帯」の朗読会が同日、後藤純男美術館で開かれ、朗読会用に再編集されたクライマックスからラストにかけてのシーンが朗読されました。参加者の中には、静かに、しかし情趣豊かに読み上げられる感動の場面に目をつぶり、情景を思い浮かべながら聴き入っている姿も見られ、降りかかる雪もまたかな苦難の中でも真っすぐに、精いっぱい生き、それぞれの人生を恢復(かいふく)していく物語に、皆と一緒に引き込まれていました。



やわらかな夕日が差し込む会場で行われた朗読会

## 特別展 小説「泥流地帯」 ～生きる、をつなぐ～



10月31日まで開かれる特別展

登場人物の紹介、読み比べなどを展示した特別展が6月29日(水)まで、後藤純男美術館で開かれています。爆発当時の写真も交え、希望を失って「生きる」ことを小説で次の世代に伝えようと三浦綾子さんの創作エピソードなども紹介されています。なお、特別展は7月1日(金)～8月30日(火)の間は保健福祉総合センターがみんで、9月1日(木)～10月31日(木)は土の館でも開催されます。見学は無料ですので、ぜひ足をお運びください。

# 大正15年十勝岳噴火

## 泥流被災90周年追悼式



十勝岳を見つめ亡き人を想う



手向けられた花と噴煙を上げる十勝岳



向山町長による追悼メッセージ朗読



発生時刻の午後4時17分、黙とうをささげる

# 吉田貞次郎村長の一女 清野ていさん の寄稿から



せいの・てい 大正8(1919)年、町内草分地区に生まれる。小説「泥流地帯」には三女の弥生さんとともに実名で登場している。平成24年3月27日、生まれ育った、そして「どうしても離れられない」と語ったこの上富良野の地に94歳で永眠。

晩年、大正泥流の語り部として自らの体験を伝えた吉田貞次郎村長の一女、清野ていさん。祖父が原野を拓き、父が壊滅的な状況から復興を成し遂げたこの上富良野を心から愛し、子どもが巣立つて実家を離れ、御主人が亡くなり一人になつた後もこの地に住み続けられました。本特集の最後に、84歳の時に「郷土をさぐる」第20号(平成15年、上富良野町郷土をさぐる会発行)に寄稿された「離れがたき我がふるむひと『父 吉田貞次郎の思ひ出』」から抜粋してお届けします。

## 上富良野への移住

(略)

## 父の思い出

(前略)

村の仕事は帰宅しても一切話しませ

んでしたが、十勝岳災害のとき復興が決まってからば」「復興事業が失敗しないだろ?」が、失敗したら復興に立ち向かった人々の苦労が無に帰するばかりでなく、復興資金を貸し付けてくれ

何時も机に向かつて新聞を読んだり、手紙の返事を書いたりしていました。子ども達にも大きな声を出す事もなぐ妹達や私も父に叱られた記憶があります。無言の中に教えを受けたことがあります。

## 十勝岳噴火

私は大正八年一月十一日、父貞次郎、母アサノの次女として現在の地で生れました。十勝岳が爆発噴火したときは数え年八歳、小学校二年生でした。五百メートルほど離れた上富良野尋常小学校(元草分小学校の前身)に通っていました。(中略)

その頃、運動会は六月十日と決まつていて、いつもは運動会の練習をしていたのですが、その日は朝から雨が降っていたので、午前中で帰宅いたしました。家に帰ると、新築中の家の壁を塗りに来ていた藤森左官屋さん(夫婦)と職人さんが、雨がひどいので仕事を早めに切り上げて、祖母と母親と世間話をしていました。

そのとき、雨とは違ひ異様な音がしたので、母が様子を見に外へ出たところ、線路の向こう側で西二線の若林さん、分部さんの家が浮かんで流されていました。

おり、それを見た母の「大変だ!」という大声で、みんなが窓から外を見ました。どうさに、祖母が「逃げよう!」と叫び、下方の山に向かつて逃げました。

## 押し寄せる泥流の中

代掻きが終わったらばかりの水田の中を素足で、私は藤森さんに背負われ、母に背負われた妹と祖母、兄とともに西の山を目指してみんなで逃げました。近所の高橋さんの家が線路の上で激流とともにグシャヤッと横倒しなり、バラバラに壊れたのを見た私は早くと背中で暴れた為、藤森さんは足を泥にとられて倒れ、その後何回も倒れましたが、その度に私を背負いなおして逃げてくれました。田圃の中を走れない祖母は畦道を走って逃げている最中、山にぶつかって流れを変えた泥流が押し寄せてきて流されてしまいました。祖母は最後に母に向かつて「覚悟せ!」と絶叫したそので、それが氣丈な祖母の最後でした。

今、伊藤さん(当時三百メートル位後方で米村さん付近)の防風林のポプラの木までたどりつき、必死で木にしがみついたと同時に泥流が押し寄せてきて、流木に取り囲まれてしましました。しばらくして流れが止まつてから、周囲に折り重なった流木を伝つて米村さんの家に入りました。家の人々はすでに逃げたあとで、膝のあた

りまで水に浸かって畠が浮いていましたが、その晩は米村さんの家で何とか一夜を過ごしました。母は「おばあさんが死んで嫁の私が生きて居られない、私も死ぬ！」と言つて聞かなかつたと言います。そんな母を藤森さんが一生懸命なだめくださつたそうです。本当に藤森さんがないなかつたり、私たち一家はみんな死んでいたと思います。その後もときどき、泥にまみれながら最後まで私を背負つて下さったことを思い出す度に、今でも涙が出来ます。(災害記録写真の中にある、

線路の上は黒山の人で、その中に父の姿がありました。绝望と思つていた私達が生きていたので、父は本当に嬉しそうでした。笑つた父の白い歯と膝まで泥にまみれたズボンが今でも目に浮かびます。しかし、大切な母親を失つた父の胸中はいかばかりだつたかと思ひ、胸が締め付けられる思いがします。



ついさんを助けた藤森源藏さん(上富良野町郷土館所蔵資料)

泥の中から四輪車を引き出されたといふ人が藤森さんです。)

### 災害から一夜明けて

翌朝、線路の上は救援の人たちでいっぱいでした。当時線路は水田よりも一メートル五十以上も高かつたので、堤防の役目をして西側の私の家は流失を免れたのでした。レールが流失した線路上をやつと歩いてきた捜索隊が私の一家を呼ぶ声が聞こえ、藤森さんが返答して捜索隊の若い人が助けに来てくれました。私と兄と妹は米村さんの下駄箱に乗せられ、ロープで引かれて二時間くらいかかりて線路まで運ばれました。予ども三人が乗つても下駄箱が沈まない位ドロドロの泥水だつたのです。

ギッシリと重なつ合つて、線路はレールが枕木ごと家の近くへ横に流されていました。そんな状態が三百メートルほど離れた四線道路まで続いており、大人の藤森さんや母達はレールの上を慎重に伝いながらやつと線路にたどり着きました。レールから滑り落ちると胸まで泥水に浸かり、昨日なま温かつた泥水もすっかり冷えて、氷のように冷たかつたそうです。その後、鉄道官舎の人にお世話をになり、濡れた衣服を着替えさせてもらひ、遠廻りして西の山伝いに市街の叔父の家に向かいました。

しばりくの間街の学校へ通いましたが、流木の上に板を並べた一本道が出たので、街の叔父の家から草分の小学校に通学しました。板の道をカタカタと下駄を鳴らして学校へ通つたのを覚えています。

### 平成の噴火

(前略)

二十年間も一人暮のしですが、「不自由な独り暮のしをどうして何時までしているのか」と、よく友人などから言われますが、その度に返答に窮しまず。生まれ育つたこの土地からじつしても離れられないのです。

十勝岳は恐ろしい山でもあります。このように美しい山はほかにありません。美しい自然と温かい人情に囲まれた、この静かな生活をもう少し楽しめたいと思っています。



減水後の吉田村長宅(上富良野町開拓記念館所蔵資料)



よみがえった田んぼには今年も苗が植えられ、秋の実りを待つ(5月22日、草分地区の泥流被災地にて撮影)

学校に通学しました。板の道をカタカタと下駄を鳴らして学校へ通つたのを覚えています。

夕と下駄を鳴らして学校へ通つたのを覚えています。

# 「ジオパーク認定が叶った」 「ジオパーク」開催!

■講演「十勝岳のなつたと  
その魅力」

北海道教育大学旭川校  
和田恵治 教授

■講演「ジオパークの可能性」

徳山大学経済学部  
柚洞(ゆぼり)一央 準教授

日本ジオパーク認定に向けて取り組みを進めていける上富良野町と美瑛町、関係機関などで構成する十勝岳山麓ジオパーク推進協議会が5月15日、多くの町民にジオパークの魅力を知つてもらおうと「ジオフェスタ」を開催。会場となつた公民館と郷土館では体験コーナーや読み聞かせなどたくさんの催しが用意され、子連れなど来場した約150人が「ジオ」の魅力を体感しました。

## 地元食材を使った 「ジオ食」無料試食会



地元野菜たっぷりピザにおいしい顔

十勝岳溶岩プレートを使ったアツアツ  
石焼きカレー。う~ん、あいしそう♪

## ココアパウダーを使った 火山噴火実験



水槽に沈めた山の模型にココアパウダー  
を流し込むと火山の煙のように噴出!!

本物の火山みた~い！

十勝岳ジオパークエリア内の地形や地質の特徴、成り立ちについて「西に広がる丘陵地は約10万年以上前の大噴火で発生した火碎流が堆積したもの。東にある十勝岳は、火口の状況や冷え固まつた溶岩に付着した木くずを調べた結果、約4700～3300年前の噴火によりできた山だと推測されます」と説明。

火山があることで美しい景観や温泉など多くの恩恵がある一方、流れた泥流の層など地質や堆積物の調査・分析から過去に幾度となく噴火を繰り返してきたといい、「たくさんの恵みを生きることも、万が一に備えて災害に強いまちづくりを」と活火山と上手に共存していくことの大切さを強調していました。



写真などで十勝岳の持つ魅力を説明

つ不思議な魅力を紹介。

また、2つの町にまだがる十勝岳ジオパーク構想について「行政の境を越えて、十勝岳を丸ごと考へる」ことの重要性を強調し「過去の噴火災害などの情報共有をはじめ、民間レベルでも隣町で行われる活動に参加して相互交流を図ることで、より強固な災害対策も可能になります」とジオ活動が秘める可能性についても触れていました。



ジオ活動の可能性を語る柚洞准教授

P.R.のため高校生が海岸をモチーフにしたお菓子を考えし売つたところ好評だったという室戸ジオパークの事例を挙げ、「携わった高校生はこれをきっかけにお菓子の専門学校に進学して、将来は郷土料理を扱う料理屋を開きたい」と言つている。地元の魅力にあらためて気付いたんですね」とジオ活動が持つ不思議な魅力を紹介。

柚洞(ゆぼり)一央 準教授

## ◆パネルディスカッション

柚洞准教授をコーディネーター、和

田教授、上富良野町郷土をさぐる会

NPO法人環境ボランティア野山人

かみふらの十勝岳観光旅館協会、上富

良野十勝岳山岳会の各代表をパネリスト

トに行われ、活動内容を中心発表。

柚洞准教授からは「各団体が連携し

て、たとえばフットパスにほかの団体

が持つ情報をなどを

取り入れれば活動

の幅が広がる。そ

の輪に美瑛の方々

も加われば、ジオ

パーク活動はもっと

と厚みを増し面白

くなります」との

アドバイスが送られました。



ゆる~く「ジオ」を語っちゃおう

## 第2回 ジオカフェ

ジオフェスタに先駆けて5月13日には、美瑛町での開催に続き第2回目となるジオカフェがフラヌイ温泉で開催されました。

ほかの地域のジオストーリー誕生事例が紹介された後、参加者は4つのグループに分かれ「私が思う十勝岳の魅力」をゆる~く雑談。最後には「泉質の違う温泉や、夏冬楽しめる遊びがある」など、十勝岳地区的魅力を発表しました。

お世話役の柚洞准教授は「このエリアの魅力は西に広がる丘陵地、そこで取れる農作物など、十勝岳が創り出した全て。視野を広げ、雑談から出た小ネタをつなぎ合わせればジオストーリーが生まれる。雑談することが大事なんです」と、みんなで語ることの大切さを強調していました。

## ◆宮沢賢治の童話「樺ノ木大学士の野宿 第1夜」朗読会

樺ノ木大学士がオパールを探すが見

つからず野宿していると、夢の中でマグマが冷え固まつてできる岩頸(がんけい)の兄弟がけんかをし始める…。

火山やさざなみな鉱物が会話をするなど擬人化されて登場しており、地学的なことを身

近に感じられる「ジオ」にぴったりの内

容で、感情豊かに読み上げる子どもたち

に、会場からは大きな拍手が起こっていました。



## かみふらのに地域おこし協力隊がキタ～



期待します！ 委嘱状交付



早速、ジオフェスタで活躍 !!

## 地域おこし協力隊 「ジオ田中」誕生!!

町では今年度3人の地域おこし協力隊員の採用を予定しており、5月6日にはジオパークを担当する一人目の協力隊員、田中誠也さん(27)が着任！ 地域おこし、ジオパーク活動への想いを田中隊員に聞きました。

「簡単な自己紹介をお願いします。

名古屋で生まれ、高校まで名古屋にいました。昔から南海地震に興味があり、地震予測について勉強したいと思いまして、東北大学に進学しましたが、ドジなことに専攻科目を間違えてしまい、地震予測の研究はできませんでした。火山を専門的に研究していたわけではありませんが、修士課程までの6年間は主に防災関係の研究をしていました。

なぜ協力隊に？

後輩がジオパークの研究をしておりいろいろ話を聞いているうちに、いつの間にか私も興味を持つようになつて

いて、気が付いたら自分でジオパークについての文献を勉強するようになつていました。そこに降つてわいたようなタイミングで、上富良野でジオ担当の地域おこし協力隊を募集するという話を舞い込んできました。

「ジオ田中」としての意気込みを

時間はありませんが、まずは来年度の日本ジオパーク認定です。私が頑張っても認定されるものではあります。私が一生懸命活動することで町全体に「ジオ」が浸透して、その結果、町の活性化につながればうれしいです。この十勝岳にしかない魅力を一つでも多く見つけ出し、ほかとの違いを生かすことで盛り上げたいです。

なお、趣味は音楽鑑賞で現在、自動車運転免許取得に向け猛特訓中です。

地域おこし協力隊は総務省が平成21年に始めた事業で、高齢化などに悩む「地方」に地域外から人材を受け入れ、地域活動を行つてもらひながら定住を図る取り組みです。

# お越しください! 学校の授業参観



町内の小・中学校では地域に開かれた学校をめざし、町民の皆さんから学校運営に対しても意見をいたぐため、参観日には自由に授業を見られるよう公開しています。また、多くの方に「特に見ていただきたい！」と地域公開参観日やオープンスクールなども設けています。時間内であればいつでも参観できますので、学習に取り組む児童生徒の姿を見にぜひ、お越しください!!

## 上富良野小学校

◆参観日 学級担任による授業  
【1・2年】 13時40分～14時25分  
6月29日(水)

11月30日(水)  
3月2日(木)

【3・4年】 13時40分～14時25分  
6月30日(木)  
11月29日(火)  
2月28日(火)

【3・4年】 13時20分～14時5分  
10月20日(木)  
12月6日(火)  
2月23日(木)

【5・6年】 13時40分～14時25分  
6月30日(木)  
11月29日(火)  
2月21日(火)

◆地域公開参観日  
道徳の授業と全校音楽発表  
【全季年】 8時45分～10時35分  
10月29日(土)

## ◆一日参観日

学級担任による授業

【全季年】 8時30分～14時5分  
7月20日(水)

## 上富良野西小学校

◆参観日 学級担任による授業  
【1・2年】 13時20分～14時5分  
7月14日(木)

10月20日(木)  
12月6日(火)  
2月23日(木)

【3・4年】 13時20分～14時5分  
10月18日(火)  
12月8日(木)

【5・6年】 13時20分～14時5分  
10月19日(水)  
12月7日(水)  
2月22日(水)



問合せ

教育振興課学校教育班

☎ 456699

## 上富良野中学校

◆参観日 教科担任による授業  
【全季年】 13時25分～14時15分  
7月14日(木)

12月8日(木)  
2月28日(火)

◆オープンスクール  
教科担任による授業  
【全季年】 8時45分～14時15分  
10月19日(水)

## 東中小学

◆参観日 学級担任による授業  
【全季年】 13時10分～13時55分  
7月6日(水)  
9月23日(金)  
12月6日(火)  
2月23日(木)



青になっても左右をよく見て横断

## 5/9 交差点は手を上げて! 交通安全青空教室

町生活安全推進協議会による交通安全教室が高田幼稚園で開かれ、年少と年中さんはクラウンドで、年長さんは△前の交差点で行われました。

講師の上富良野交番、佐々木義明所長から交差点を渡る時の注意点について「青信号のときは『自分はここにいるよ』とわかるように、手を上げて横断歩道を渡ってください」との説明を受けた年長さんたちは、信号が青に変わると車が来ていないか左右をしつかり確認し、先生と一緒に手を上げて元気に横断歩道を渡っていました。



月のクレーターをじっくり観察

教室は町内の保育所と幼稚園のほか、全小・中学校でも行われました。

## 5/13 木星のしま模様まで見えたよ! 天体観望会

今年度の第1回目となる天体観望会が上富良野西小学校チャレンジ天文台で行われました。

月と木星のほか、ガリレオが発見した木星の4つの衛星「ガリレオ衛星」などを観察し「わーすごい。木星つてシマシマ模様だね」「月のクレーターがデコボコですごかった!」などの感想を口にしながら、楽しそうに望遠鏡をのぞいていました。

また、双眼鏡でも観察した参加者は想像以上に大きくはつきりと見える月の姿にビックリ。講師の大上達也さんは「望遠鏡がなくて、倍率で倍くらいの双眼鏡があれば十分星空を楽しめます。手軽なのでお勧めです」と話していました。

町内の2団体が熊本地震義援金の募金活動を行いました。  
4月30日には日赤奉仕団がかっぽう着姿でスーパーとコンビニエンスストア前に立って募金を呼び掛け。家族が熊本にいる方やおごづかいを持って来た子どもなど、たくさんの方が募金に協力していました。

5月12日には上富良野中学校の生徒会



かっぽう着姿で募金活動



手づくりの募金箱を手に呼び掛け

町内の2団体が熊本地震義援金の募金活動を行いました。

4月30日には日赤奉仕団がかっぽう

が登校時、同校玄関前で募金活動を実施。「被災した人たちのために」と生徒会員らが発案したもので、玄関前で手づくりの募金箱を持った役員が「募金をお願いします!」と登校してくる生徒に呼び掛けていました。

## 4/30 がんばろう熊本・大分 熊本地震募金呼びかけ

## 5/11 心一つに事故撲滅を 春の交通安全祈願会

町生活安全推進協議会による春の交通安全祈願会が行われました。

この日は悪天のため、交通安全守護地蔵のある深山峠新四国八十八ヶ所霊場の建物内で実施。同協議会の島瀬良一会長は「観光シーズンは交通量が増え、交通事故の多発が予想される。交通安全活動を積極的に展開し、事故に遭わない、起こさない取り組みを進めます」とあいさつ。雨により旗の波作戦は中止となりましたが、関係機関や団体などから参加した36人が心を一つに交通事故撲滅を祈願しました。



悲惨な交通事故が起きないよう心を合わせ祈る参加者

## 5/16 住民の手で美しいまちに！ラベンダー植栽



積年会によるラベンダーの植え替え作業



スーパーで啓発グッズを配布



玄関口で詐欺被害防止を呼び掛け

### 5/16 特殊詐欺に気を付けて 街頭などで防犯啓発

5月16日には町内のスーパーとドラッグストアの2店舗前で街頭啓発、19日には各家庭を回っての戸別訪問啓発を実施。

「最近、町内でも特殊詐欺などが発生してい

ますので、怪しい電話などに十分気をつけよう」と声をかけながら、振り込め詐欺や空き巣などの被害防止を呼び掛けたチラシとポケットティッシュを手渡していました。

張つていていたり、周囲は土が硬く締まっており、掘り起こすだけでもひと苦労。スコップで少しづつ掘つては、丁寧に苗を植えていました。

一方、西富住民会「友愛会」でも中央保育園から島津公園野球場にかけてのラベンダーの草取りを実施。美しい

沿道では7月になるとラベンダーがソーラーから上富良野交番前交差点までの歩道にラベンダーを植栽しました。

## 5/21 気軽にどうぞ！「みんなのカフェ」オープン



講演では避難続きで地域経済が疲弊した事例も紹介

### 5/24 十勝岳の防災対策話し合ひ 防災協議会総会

3月31日に設置された十勝岳火山防災協議会(向山富夫会長)の総会が保健福祉総合センターかみんで開かれ、噴火被害が想定される自治体や関係機関などから31人が出席しました。

同協議会は十勝岳噴火災害の警戒・避難体制を協議するもので、今回は避難計画の再検討や防災訓練などの年間計画が提案され、終了後には北海道大学大学院理学研究院の大島弘光准教授による「新たな一步に際し、過去の噴火活動に学ぶ」と題した講演も実施。大島准教授は国内の災害事例を挙げ「防災対策では災害後の『人と社会の復興』も考えることが必要。大正泥流の経験を生かし、日本一の防災計画を練りましょう」と話していました。



運ばれたイチゴのパンケーキに「おいしそ～♡」



同じ高齢者が1年に3回も事故を起こすことも

## 5/27 高齢者の交通事故を防ぐつ！道民カレッジ

人権擁護委員と上富良野西小学校の5、6年生、介護サービス事業所「ふくしん」の利用者が、同校前の歩道脇に750本の花の苗を植えました。人権擁護活動の一環として行われたもので、花のポットや帽子が飛びほどきの強風の中、富川千優児童会長の「お花を植えて明るいまちにしましょ。」とのあいさつで苗植えがスタート。参加したふくしんの利用者からは、「子どもが植えている姿を見て元気が出ました」との明るい声が聞かれました。

## 5/25 命あるものを大切に…人権の花運動



ちゃんとお花が咲きますよう～に♥

富良野警察署の菅原和幸交通係長を講師に、いしづえ大学と道民カレッジの連携講座「高齢者の交通安全」が社会教育総合センターで行われました。道内では飲酒運転による大事故発生にかかわらず、飲酒運転が後を絶たない現状に「飲酒したら運転しない。周りの人は飲酒運転しようとすると止めてほしい」と強調。また、高齢者の交通事故は自動車の運転中よりも歩行中、しかも夕方に多いことから「ドライバーが見つけやすいように、外出するときは反射材の使用を」と事故防止のポイントの説明があり、夜光反射材付きのエコバックが参加者全員に配られました。

## 5/29 ハイレベルな争いが展開パークゴルフ大会



私が嫌だなと感じるのはこっち…

## 5/27 誰が見るか考え写真公開 上高携帯安全教室

【優勝】 団体の部 本町住民会A  
男子の部 生出貞夫さん  
女子の部 六本木末美さん



十勝岳を望む絶好のロケーションで楽しくプレー♪

「公開されたら嫌な写真、されてもいい写真」についてグループに分かれの意見交換を受け、「同じ写真でもいいか嫌がは人によって違う。『写真はいろいろな人が見るので、公開する前にそのことを強く意識してください』」とのアドバイスが送されました。

「公開されたら嫌な写真、されてもいい写真」についてグループに分かれの意見交換を受け、「同じ写真でもいいか嫌がは人によって違う。『写真はいろいろな人が見るので、公開する前にそのことを強く意識してください』」とのアドバイスが送られました。

このほかのできごとは、上富良野町行政ホームページでも掲載中！ アドレス <http://www.townkamifurano.hokkaido.jp/>



楽しく学ぼう  
いつまでも!

# 生涯學習情報

問合せ・申込み  
教育振興課社会教育班 ☎ 05511

対象 小学1～6年生

## □放課後クラブ

日時 月～金曜日の放課後～16時  
場所 上富良野西小学校  
休業日 学校休校日、日曜日、祝日  
利用料 1千200円(1年間)  
※利用状況による返還はありません  
帰宅方法 終了後各自で帰宅します

対象 小学1～6年生  
場所 上富良野西小学校

□放課後スクール

教育委員会では、地域の皆さんのご協力をいただきながら、安心・安全な子どもの活動拠点「放課後スクール」と、放課後や休校日(夏休みなど長期休校含む)に保護者が仕事などで留守になる児童の預かり事業「放課後クラブ」を行っています。



## 放課後事業



屋内では宿題などの学習、ぬり絵や工作など、体育館やグラウンドではトッジボールや遊具で遊んだりと過ごし方はさまざま

利用条件  
月5日

・保護者の就労などにより、放課後に留守家庭となる世帯である(就労証明などの書類提出)

・町税などに滞納がないこと  
利用料 1千円(1月)  
※延長利用は30分につき100円

帰宅方法 必ず保護者に迎えに来ていただきます。  
度々登録した方も必ず提出願います

□申込方法 利用申込書を提出(前年

場所 上富良野小学校(上富良野西小学校と東中小学校の児童はスクールバスで移動します)  
日時 月～金曜日(祝日を除く)の放課後～18時、学校休校日の8～18時、有料で7～8時(小学校休校日のみ)と18～18時30分の延長利用も可能  
休業日 日曜日、祝日、12月31日～1月5日

6月20日(月)～24日(金)はワッククス清掃のため、アリーナの全面と2階部分(小アリーナ、ランニングコース、トレーニングルーム)は利用できません。

6月21日(火)～26日(日)は蔵書点検のため臨時休館します。返却期限を過ぎている図書をお持ちの方は、至急返却してください。  
休館中に本を返却される方は、ブックポストをご利用ください。

問合せ 図書館「ふれんど」  
☎ 0531-58-1531

図書館「ふれんど」  
臨時休館

社会教育総合センター  
アリーナ利用休止

歴史探訪研修会

大正15年の十勝岳噴火から今年で90年。郷土館では、泥流被害の爪跡や復興の歴史を感じられる町内の施設と史跡を巡ります。

日時 7月10日(日)  
9時30分受け付け

定員 20人(小学3年生以下は保護者同伴)  
参加料 100円(保険料)

申込期限 6月27日(月)



その他 車中の飲食  
物や昼食は各自で準備(希望者には昼食を実費負担であつせんします)

申込み・問合せ 公民館  
☎ 0531-58-1531

教育委員会では、町内に住所を有する小・中・高校生で、地区の予選を勝ち抜き、全道・全国大会などに出場するスポーツ団体と個人に対し、報奨金をお渡ししています。  
該当ある方は上記お申し出ください。

✿ 教育振興課では「早ね早あき朝ごはん運動」を推進しています ✿

活用  
しよう

# 上富良野町 空き家・空き地情報バンク



※仲介業者を利用している場合は連名での申請が必要です。

問合せ 総務課企画財政班  
(45)6980

総務課にある「登録申請書」「同意書」に必要書類を添付して提出してください。

## ◆登録方法

町内にある空き家(住宅・アパート)、住宅建築可能な空き地、空き家との敷地(農地)を除く

・この制度は情報提供を行うもので、町が不動産物件の仲介をするものではありません  
・ホームページには所有者の連絡先を掲載します。制度の趣旨をご理解いただける方のみ登録してください。町は一切の責任を負いません。

## ◆登録できる方

有者に登録していただき、町のホームページ(移住相談窓口)などで情報を発信。利用希望者が物件や所有者情報を確認して所有者へ直接連絡し、交渉のうえ契約していく制度です。

町内にある空き家や空き地を有効活用し、定住・移住による地域の活性化を図るため「空き家・空き地情報バンク」制度を用意しています。

売買や賃貸の可能な空き家(住宅・アパート)や空き地を所有者に登録していただき、町の

## ◆利用の流れ

①空き家・空き地情報バンクに掲載を希望する方は総務課に登録を申請

②町が登録申請情報を確認し、物件情報を確認して物件情報を確認

③利用希望者がホームページに掲載

④ホームページを見た所有者の確認

⑤利用希望者が物件の所有者へ直接交渉して契約



## 平成27年度の運用実績

### ○行政サービスの制限措置

町では、特別の理由がなく町税などを滞納した場合、受けていた行政サービスの停止や取り消しをする「町税等の滞納者に対する行政サービスの制限措置等に関する条例」を定めその運用状況を議会へ報告するとともに、一般に公表することとしています。

平成27年度の措置件数 0件

問合せ 町民生活課税務班 (45)6989

### ○情報公開・個人情報保護

町が保有する情報はいつでも誰でも公開を求め、自分自身に関する情報は開示のほか訂正や削除を求めることができます。

また、個人のプライバシーに関する情報は適正に保護されることとなっています。

### ○情報公開制度 請求1件

住居表示台帳 公開1件

### ○個人情報保護制度 請求4件

町立病院診療記録 公開4件

問合せ 総務課総務班 (45)6400

開催  
します

## 「まるごとかみふらの」 ビアガーデン

夏の風物詩「まるごとかみふらの」ビアガーデンを今も開催!  
かみふ産の大麦「りょうふう」とホップ「コールデンスター」のみを使った、かみふでしか味わえないプレミアムビール「まるごとかみふらの」。

問合せ プレミアムビール「まるごとかみふらの」四季彩実行委員会事務局(産業振興課)  
(45)6984

日時 7月9日(土)  
16～19時30分  
場所 銀座通り  
チケット 1千200円(生ビール3杯) 6月16日(木)から販売  
販売場所 産業振興課、商工会、JAふらの上富良野支所



ホームページ まるごとかみふらの

## 6月は「外国人労働者問題啓発月間」です

国内で働いている外国人の就労状況では、社会保険未加入や適正な労働条件が確保されていないなどの問題が見受けられます。外国人を雇い入れる際は、次の3点をご確認ください。

- ・就労が認められる在留資格を確認していますか?
- ・雇用、離職時はハローワークへ届け出ていますか?
- ・労働法令を守り、社会保険などに入っていますか?

問合せ ハローワーク富良野 (24121)  
旭川労働基準監督署 (0166-35-5901)

## 無料体験学習

期間 5・6月 対象 小学生 費用 無料  
内容 実力診断テスト、アドバイス面談  
2回の教室学習と間の家庭学習

月・水曜日にテスト、面談を致します  
お電話にてご予約下さい

入会金  
**0円**  
キャンペーン

上富良野町宮町3丁目7-13 指導者 八島かおり  
自宅・教室・FAX 0167-45-3405



[広告]

**地域がづくり者福祉研修会に関する**

4月1日、障がい者への不当な差別の禁止と配慮を目的とした「障害者差別解消法」が施行されました。障がいの有無に関係なく、誰もが平等に生活できる社会づくりに向け、研修会を開催します。

日時 6月24日(金)

13時30分～16時

場所

保健福祉総合センターかみん

内容 上川総合振興局保健環境

部社会福祉課、佐藤誠一さん

による講演「障がい者の差別

解消に向けて」、富良野圏域

の障がい者施設の紹介、障が

い者からの声

参加料 無料

問合せ 保健福課福祉対策班

④6987

**社会を明るくする運動会  
発音楽パレード**

社会を明るくする運動は犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちへの理解を深め、力を合わせて犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする運動です。毎年7月を強調日間として、更

生保護の日の7月1日には音楽パレードを開催しています。

日時 7月1日(金)

13時40分 役場出発

14時30分 高田幼稚園到着

※雨天の場合は13時40分から上

富良野小学校体育館で「音楽

発表会」を開催します

問合せ 保健福課福祉対策班

④6987



**平成28年度要約筆記者養成講座(前期)**

一般社団法人北海道身体障害者福祉協会では養成講座(前期)の受講者を募集しています。

日時 9月17日(土)・18日(日)

10月22日(土)・23日(日)

11月26日(土)・27日(日)

12月17日(土)(全7回)

定員 40人程度(手書き部門)

場所 道民活動センター・ビル

パソコン部門 各20人  
受講料 約4千500円(テキスト代など)

申込期限 8月10日(水)

問合せ・受け付け

北海道身体障害者福祉協会

札幌市中央区北2条西7丁目

道民活動センター・ビル4階

TEL 011-251-1551

FAX 011-251-0858

ホームページ

<http://www.hokusinkyo.or.jp/hikkouza.htm>

**保健**

**かみんプール利用休止**

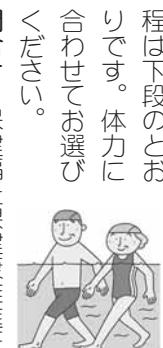
7月18日(月)～21日(木)は清掃・点検のため、プール・浴室の利用を休止します。

問合せ 保健福課福祉対策班

④6987

**かみんプール教室**

7月1日～9月30日の教室日程は下段のとおりです。体力に合わせてお選びください。



**かみんプール教室スケジュール**

【7月1日～9月30日】

	月	火	水	木	金	土	日
9時～10時				一般利用			
10時	チエンジボディ (40分) ①・①	頑張るダイエット (40分) ②・② (陸上筋トレ30分)	アクアビクス (45分) ②・③	頑張るダイエット (40分) ②・② (陸上筋トレ30分)	パワー筋トレ (40分) ③・②	頑張るダイエット (40分) ②・② (陸上筋トレ30分)	一般利用
11時～14時		一般利用	(教室終了後～20分間 流水タイム)				
14時	ルンルンアクア (40分) ①・②	脚力のすすめ (40分) ②・②	燃焼ウォーク (40分) ②・②	チエンジボディ (40分) ①・①	スリムウォーク (40分) ②・②	一般利用	
15時～19時		一般利用	(教室終了後～20分間 流水タイム)		※土・日曜日は15時～15時20分		
19時	パワー筋トレ (40分) ③・②	スリムウォーク (40分) ②・②	よくばりアクア (50分) ②・③	脚力のすすめ (40分) ②・②	燃焼ウォーク (40分) ②・②	チエンジボディ (40分) ①・①	一般利用
～20時30分		一般利用	(教室終了後～20分間 流水タイム)				

\* 表の○で囲んだ数字は左が『きつさ』、右が『難しさ』を表しています。数字が大きくなるにつれてきつく、難しくなります

\*「頑張るダイエット」は30分間の陸上での筋力トレーニング後、プールで有酸素運動を40分間行います

\*「流水タイム」の間はフローマシンが利用できます。時間内は1コース使用しますのでご了承ください(日曜日は15時のみ)

\*初めてプールに入られる方は個別対応もしますので、プールスタッフに声をお掛けください

相談

巡回無料法律相談

旭川弁護士会では、巡回無料法律相談を実施します。

相続や土地の売買、借金、離婚、消費者問題など、日々の悩みを弁護士に相談できません。相談には予約が必要です。

日時 6月28日(火) 13時～16時

場所 保健福祉総合センターかみん

申込期限 6月24日(金)

申込み・問い合わせ 総務課総務班

④6400

催し

東京大学北海道演習林  
大麓山ハイキング登山会

千490mの大麓山へ登つて景色や

高山植物を観察しよう!

日時 7月10日(日) 9時

場所 東京大学北海道演習林

対象 小学生以上(小学生は保護者同伴、中学生以上の生徒は保護者の同意書が必要)

定員 30人  
参加料 無料  
申込方法



みんなの伝言板

上富良野小学校  
同窓会総会

上富良野小学校同窓会では、同窓会規約第10条に基づき、総会を開催します。同窓生は出席をお願いします。

日時 6月30日(木) 19時  
場所 上富良野小学校  
多目的ホール

議案 事業報告、決算報告、役員改選ほか  
問合せ 上富良野小学校(同窓会事務局) ④2052(田畠)



緊急連絡先を記入のうえ、左記へ申込み

申込期限 6月30日(木)  
申込み・問い合わせ  
東京大学北海道演習林  
④21111

手続き

児童手当現況届

児童手当を受けている方は6

月中に現況届の提出が必要で

す。届け出がないと6月分以降

の手当が支給されませんので、

早めに手続きください。

また、公務員が退職して民間企業に就職、町外からの転入、子どもの出生などがあつた場合はその都度手続きが必要です。

問合せ 町民生活課総合窓口班  
④6985

水道の開栓・閉栓など

次のようなときには手続きが必要です。忘れずに左記へ連絡ください。

- ・引っ越しにより、新たに水道を使用するとき
- ・引っ越しにより、水道を使用しなくなつたとき
- ・使用者の名義が変わるとき
- ・そのほか変更があるとき

問合せ 建設水道課上ト水道班  
④6982

児童手当を受けている方の年金に反映されないほか、障害・遺族年金を受けられない場合もあります。

上富良野町職員人事

◎新規採用(6月1日)

南雲陽介(町立病院薬剤師)

問合せ 総務課総務班  
④6400

【免除の区分】

全額免除 納付額 0円  
年金額への反映割合 1/2

3/4免除 納付額 月額4千70円  
年金額への反映割合 5/8

半額免除 納付額 月額8千130円  
年金額への反映割合 3/4

1/4免除 納付額 月額1万2千200円  
年金額への反映割合 7/8

□若年者納付猶予制度

30歳未満で、本人や配偶者の前年所得が一定基準額以下の方は、申請により保険料の納付が10年間猶予されます。

今月の年金のお話

保険料の納付が困難などもは手続きください!

◆国民年金保険料免除制度

保険料を納める本人や配偶者、世帯主の前年所得が一定基準以下の方、失業して納付でき

ない方は、申請により保険料の全額が一部が免除となります。

一部免除の間、免除以外の保険料を納めないと年金に反映されないほか、障害・遺族年金を受けられない場合もあります。

●申請受け付け 平成28年7月～平成29年6月

分は7月1日から

申込み・問い合わせ 旭川年金事務所  
④166-27-1611



当該期間は未納扱いにはなりませんが、追納しない限り受給年金額に反映されません。

●持ちもの

年金手帳、印鑑、失業が理由の場合は雇用保険受給資格者証

か離職票

の場合は雇用保険受給資格者証

か離職票



まつもと  
松本 理央  
(2歳1か月)

♥賢太さん・明子さんの子♥  
食べること、遊ぶことが大好きで、とっても人懐っこい理央。最近ハマっていることはボール遊びとシャボン玉です。体を動かすことが大好きなので、将来は体操選手のようなスポーツウーマンになってほしいです！（明子さん）



就学前のお子さんを募集しています。  
町民生活課自治推進班 / ④6985

すずき  
鈴木 琉空  
(5歳)  
くわん  
佑絃  
(2歳2か月)

♥裕太さん・奈八さんの子♥

琉空は体を動かすことや外遊びが大好き。佑絃はお兄ちゃんのまねをよくするけど、悪いことはまねをしないちゃっかり者です。これからも兄弟仲良く、健康で元気に育ってね！

（奈八さん）



先日行われたジオフェスタも無事に終わり「ほつ」と一息のジオ長谷川であります。今回はジオストーリーの詳細とロゴマークについてのお知らせです。

### □十勝岳を表すあろつのジオストーリー

#### ①北海道の屋根 十勝岳ものがたり

数年前に生まれ、噴火を繰り返し山体部や噴火口の姿を変える十勝岳。今でも噴火のつめ跡 大正泥流の堆積物が登山道からでも見ることができます。山の周辺には広大な天然林や白樺街道、氷河期の生き残りであるエゾナ

## 十勝岳ジオパークを誕生させよう！

問い合わせ

総務課ジオパーク推進・地域活性化室

④6980

キウサギなどが見られるほか、温泉がいくつも湧いており、山の恵みが人々を癒やしています。ジオストーリーでは、この十勝岳連峰の豊かな自然と人々の歴史を伝えます。

### ②大地に育まれた火山と共生する美しさ

観光客を魅了する美しい丘の多くは耕作地。農耕者の努力と協力によって保たれています。この丘は火山との関係も深く、噴火で起きた火碎流により波状丘陵が作られ、堆積物からは美瑛軟石が生まれました。美瑛町ではこの石を建築資材として活用し、建物を

解体する際には再利用します。ジオストーリーでは、美しい丘の形成と景観保全の取り組みについて紹介します。

### ③十勝岳泥流のつめ跡に北の大地を切り拓く

大正15年5月24日、十勝岳の噴火により泥流が発生。美瑛町と上富良野町では14人の尊い命が犠牲となり、農耕地も甚大な被害を受けました。両町では災害に強いまちづくりへの意識が根付いたほか、町内では農業の復興と地域の願いを込めた土づくりを学べる

（土づくり）を学んでいます。



「土の館」ができました。ジオストーリーでは、災害史と過去の防災対策、苦難の中から復興した農業の歴史について語り継ぎます。

### ④ついに完成！ ローラーク

80作品もの応募の中から、橋爪浩昭さん（東京都）のデザインに決定しました！ 十勝岳と波状丘陵を題材に雄大な自然のパノラマをイメージしたデザインとなっています。

ぜひ、覚えてくださいね～



男性には少し狭め

ねえねえ 見て見て！ やたしの

## ちょこっと自慢

宮町3丁目 湯口登さんの  
「スーパーコンテッサ」



フランス製の原動機付4輪車

車に詳しい方からも「よく直せたね」と驚かれるそうです。「運転するのが楽しい車。直せなくなったら家の屋根に飾る予定なんですよ！」と本気で話すほど愛ぶりでした。

あなたの「ちょこっと自慢」をお寄せください！ 町民生活課自治推進班 / ④6985

広報かみふらの 2016.6 32

# 花人街道237

今月のテーマは…  
アウトドアを楽しもう

富良野市 第41回北海イカダ  
下りIN空知川

「北海道の母なる川～空知川をイカダで下ろう～」をキャッチコピーに、布部大橋から富良野大橋(島ノ下)までの約10kmを下ります。普段はあまり体験できない川でのアドベンチャーを楽しもう！

日時 7月17日(日)

9時30分～15時

場所 布部大橋下の河川敷スタート

申込期限 7月8日(金)

問合せ 商工観光課 ⑨2312

中富良野町 北星山観光リフト営業開始

6月18日(土)から北星山町営ラベンダー園の観光リフトが夏の営業を開始します。今年は4種類のラベンダーと、色とりどりの花畠が楽しめます。展望台から富良野盆地の田園風景と十勝岳連峰の絶景を満喫しませんか。

往復料金

大人300円 子ども200円

問合せ なかふらの観光協会

⑨3033

南富良野町 カヌー・ラフティングに挑戦しませんか？

カヌーでまつりと湖面を散歩。手つかずの自然が残る空知川で大迫力のラフティング。どちらも夏定番のアクティビティです。初めての方やご家族でも気軽に楽しめる各種スクールと豊富なツアーをご用意しています。

問合せ NPO法人南富良野まちづくり観光協会

⑨7000

占冠村 ニニウキャンプ場

ニニウ地区には太古からヒグマやエゾシカ、モモンガなど多くの動物が生息しています。キャンプ場は彼らからほんの少し間借りをさせてもらった場所。そんなキャンプ場で自然を大切にしながら、“不便”を楽しみませんか？

問合せ ニニウキャンプ場

⑨2352

NPO法人占冠・村づくり観光協会 ⑨8010

本回は…

# 晴れ時々くもり 一時雨

ヒューマンインターフェイス&より  
～額に汗してがんばってます！～

今日は製作部門「かみふらわー」の近況と、額に汗しながら(!)作製している商品のご紹介をしたいと思います。

当地キヤラクター「らべとん」のマグネットや編みぐるみは引き続き力を入れて制作中ですが、新たに「ベビーらべとん」も登場、商品の仲間入りを果たしました！

「メッシュやかわいい♥

多くの人に見て触つてもらえる機会をいただいたことで、以前にも増してメンバー一同気合いが入っています！

リーコーナルしたパンフレットは旭

川信金さん、サウンドブースさん、富良野ホップホテルさんなどに置かせてもらっています。商品は福太朗、ふじ田、マンダなどの各店舗でご覧いただけます。まだまだ不慣れな点もありますが、観光シーズンに「かみふらわー」をどんどん宣伝して、ま

での活性化にもつながればと思っています。取扱店舗も徐々に拡大できればと考えていますので、協力いただける事業所さんはぜひ、お声掛けください。

火が燃えているときは絶対にその場から離れない

・周囲に燃え移る物がないか確認する

・バーベキュー後の炭は、専用の捨て場、火消しつぼ、水をはったバケツなどで完全に消火する

●春の火災予防運動を実施しました  
(実施期間 4月20～30日)  
20日 上富良野・中富良野消防署共同  
火災防御訓練  
23日 少年消防クラブ入隊式  
25日 女性防火クラブ独居老人家庭防

火訪問  
7月上旬 幼年消防クラブ、女性防火クラブ合同防火パレード  
9月1日 中富良野・上富良野消防総合演習

9月上旬 ふれあい広場会場にて消火器無料点検実施予定

暖かくなり、屋外でバーベキューや花火を楽しむ季節になりました。しかし、火の不始末が原因で楽しいはずのレジャーが台無しになることも。次のポイントをしっかりと安全に楽しみましょう。

●炭火を使用する際

・火が燃えているときは絶対にその場から離れない

●今後の主な事業  
7月上旬 幼年消防クラブ、女性防火クラブ合同防火パレード  
9月1日 中富良野・上富良野消防総合演習  
20日 上富良野・中富良野消防署共同  
火災防御訓練  
23日 少年消防クラブ入隊式  
25日 女性防火クラブ独居老人家庭防

問合せ 上富良野消防署指導係 ④2119

火の後始末はしっかりと！

～ファイヤーマンからのメッセージ～

ヒューマンインターフェイス  
株式会社 ⑨4545

くて世界に一つだけの作品を心を込めて作つてあります。元凌雲閣さんの売店で念願だった観光施設デビューを果たし、6月からはトリックアート美術館の売店にも並べてもうっています。皆さんの協力のおかげで

ての？」  
と言われた

「どうで作っ

てるの？」

といふ

「かみふらわー

手作り雑貨

ヒューマンインターフェイス株式会社  
指定障がい福祉サービス事業



# 夜空を見上げれば…

問合せ  
教育振興課社会教育班 ☎ ④5511

☆6月の上富良野の星空は…



上は6月26日午後9時の上富良野町の星空です。南のてんびん座には火星が赤く、隣のさそり座には土星が黄色く輝いています。5月31日に地球に最接近したばかりの火星はまだ十分に明るく、見ごろが続いている。表面の模様を見るには望遠鏡が必要ですが、近づいた時と遠ざかった時の見かけの大きさが大きいため、肉眼でも明るさの変化を楽しめます。このころの火星はマイナス1.7等ですが、地球から遠ざかるにつれて少しずつ暗くなっていき、来年春には2等星ほどの明るさとなります。また火星がどんどん星座の中を移動していくのを観察するのも面白いです。6月にはてんびん座にいる火星がさそり座、へびつかい座、いて座、やぎ座、みずがめ座、うお座、おひつじ座、おうし座、ふたご座へと移動し、かに座で太陽と「合」(太陽の方向とほぼ同じ位置)となり、明るさでは目立たなくなりますが、来年の初夏までずっと見えていることになります。最近はコンパクトカメラでも星空撮影が簡単にできるようになっていますので、火星の位置や明るさの変化の記録に挑戦するのも楽しいです。

21日は夏至です。夜が短く星空を仰ぐにはやや不向きなので、日の出、日没の方角や時刻の違いを体感するのはいかがでしょうか。「太陽は東から昇り西に沈む」といいますが、真東から昇り真西に沈むのは北海道では春分と秋分のころで、夏至の時期は日の出、日没ともにやや北に移動します。この時期は日本でも北の地方ほど日照時間が長くなりますが、北欧ノルウェーのオスロではなくと夜11時過ぎに日没、朝4時前には日が昇ります。地球の1日は24時間ですが、場所によって昼夜の長さがこれほど違うのも、地球が宇宙の一部であることを実感できるひとときです。

発行日 平成28年6月10日

発 行 上富良野町

編 集 町民生活課自治推進班

印 刷 (株)あいわプリント

ご意見・ご感想をお寄せください。

〒071-0596

北海道空知郡上富良野町

大町2丁目2番11号

☎ 0167④6985 FAX 0167④5362

メール : jichi@town.kamifurano.lg.jp

たくさんのご寄付  
ありがとうございました

町へ

◎中田睦弥さん	5万円
◎松岡敬子さん	3万円
◎荻野孝一さん	5万円
◎富桑工業株式会社(富良野市)	50万円

町立病院へ

◎荻野孝一さん	5万円
◎林嘉寿雄さん	2万円

社会福祉協議会へ

◎宇佐見正光さん	30万円
◎とんとん祭り実行委員会	4万円

## 7月の天体観望会

NPO法人東亜天文学会会員の大上達也さんを講師に望遠鏡を使って土星や木星などを観察するほか、解説を聞きながら夏の星座などを眺めます。

中止の場合は16時以降に連絡します。

**日時** 7月12日(火) 19:30~20:30

**場所** 上富良野西小学校チャレンジ天文台

**定員** 25人(中学生以下は保護者同伴)

**参加料** 無料

**申込期限** 7月8日(金)

**申込み・問合せ**

教育振興課社会教育班 ☎ ④5511



白夜の太陽の移動

上富良野の日没

北 北北東 北東 北東 東北東

西北 北北西 西北西

上富良野の日の出

東北東

夏至(6月21日)の日の出と日没

場 所	北緯	日の出	方角	日没	方角
オスロ	約60度	3時55分	北北東	23時06分	北北西
上富良野	約44度	3時42分	北東	19時19分	北西



5/27 「ちよこっとベンチ」を矢花歯科クリニック前に設置しました。ひと休みにご利用ください♪

● 人のうごき ●  
( )は前月比

平成28年5月31日現在

人口	11,055人 (+ 15)
男	5,566人 (+ 9)
女	5,489人 (+ 6)
世帯	5,290世帯 (+ 26)

